

日本技術士会神奈川県支部 第153回CPD講座 報告書 HP用

開催日	2026年3月28日(土)
開催時間	13:30～16:50
名称	技術者のための知財講座 ～AIを活用した R&D 戦略～
主催	(公社)日本技術士会神奈川県支部
開催場所	波止場会館 4 階 大会議室 および Web 中継
行事内容	講演会
参加人数	74名(会場18名+Web 56名)

内容

I 講演概要

【講演1】 生成AI普及期の知的財産戦略と実務対応

講師: 植田 晋一 氏

中島・植田 国際特許事務所 代表弁理士

所属団体: 日本弁理士会、国際知的財産保護協会(AIPPI)

弁理士(特定侵害訴訟代理業務付記)

知財生成AIの普及により、知財の役割は単なる防御から、経営価値創造や事業戦略との統合へと広がっている。本講演では、技術の陳腐化を前提とした迅速な権利化や、オープン&クローズ戦略の再設計について説明された。

あわせて、AI関連発明の出願・審査動向を踏まえつつ、発明発掘、先行調査、明細書作成、翻訳、中間処理などの知財実務におけるAI活用の現状と、実務上の有効性・限界を整理した。

さらに、著作権法30条の4、生成物の類似性・依拠性、AI生成物の著作物性、海外訴訟動向を踏まえ、AI活用に伴う法的リスクを確認した。その上で、技術者にはAIでは見つけにくい課題を発見し、AIと専門家を適切に使い分ける視点が求められることを提起された。

【講演2】 技術者の羅針盤:IPランドスケープ ～生成系AIが加速する攻めと守りの知財～

講師: 中村 栄 氏

知的財産研究教育財団 知的財産教育協会

本講演では、技術者が未来を見通すための“羅針盤”としての IP ランドスケープ (IPL) の意義と実践を示し、特許情報を活用した事業戦略・研究開発支援の重要性を解説された。自動運転や Radar 技術の特許価値分析を通じ、異業種参入や競争優位の構造を可視化し、IPL が経営判断に資する強力な手法であることを示された。

また、生成系 AI の進展により、技術トレンド分析、競合把握、価値創造、リスク管理が飛躍的に加速し、知財業務の高度化と民主化が進む未来像を提示された。特許データと AI を組み合わせることで、技術者・研究者がより戦略的に意思決定へ貢献できる新たな知財の姿を描いた。



講演 1: 植田 晋一 様



講演 2: 中村 栄 様



会場風景